

しょうかんぜにしゃくようじよう
【正觀錢借用狀】

(端裏書)

「たゝひうかし(東)のち(地)のもしよ也(文書)」
かり(借)うくる(請)りせ(利)に(錢)の事

合拾貫文者 とる月ハゆるゝ也

右、件せ(錢)にハ、月ことに百文へち(別)にろく(六)

もんあて(宛)のりふん(利分)をそへて、け(懈)たいなく(怠)

わきま(弁)へさたす(沙汰)へく候、た(但)ゝし(質)しちも(物)

ちにハ、くち(口)二丈五尺をく(奥)へ八ちやう(丈)のち(地)

のけん(券)もん(文)、ならひにふしちしやう(案)のあん(案)□

らをいれ(入置)をき候、ち(地)のさい(在所)そハけん(券)もん(文)に

み(見)へたり、もし(一)いちハ(倍)いすき候へ、ち(地)のハ

なち(放)しやう(状)あるへからす候、これをうり(売)

けん(券)として、しん(進)たいりやう(退)ちせられ(領知)

候へし、いさゝかし(子細)い申候へからす候、又

もしこのち(違乱)にいらん(含弟)もい(出)てきたり(来)

候ハん時ハ、うけ人しやていゑんち房(請)・

し(子息)そくしやうち房(沙汰)さたとして、ほう(謀訴)そ

のあき(明)らめをいたすへく候、かつうハなか

れなかれぬせんこんを申候へからさ、か(す力)ゝりさた

すへく候、よてせうもん(証文)のしやう(状)、くた(如件)のことし、

文永十一年十月廿四日 正觀(花押)

うけ人しやていゑんち房(花押)

しそくしやうち房(花押)